



# いずみ

No.69

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 39



《 無題 》

梅田 力

(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 39 作者の言葉

形に言語的な役割を求めているわけではないですが、言語化出来ない、形だけが語りうる声があると信じています。現代美術では、言葉を使って、いかに作品に聡明な意味付けが出来るかが重要視されているようですが、私は実直に形を探求し、そこから時折聞こえてくる、微かな形からの声を大切に制作していこうと日々奮闘中です。

(星槎道都大専任講師 北広島市在住)

タイトル：《 無題 》

制作年：2019年

素材：藤、竹、布、ひもにカシューで着彩

サイズ：H100×W150×D90cm  
(サイズ可変)

設置場所：作家蔵

## 連載 宮の森の四季 38

### 本郷新記念札幌彫刻美術館

#### 20年目にして初の異動

岩崎直人

1999年、札幌芸術の森美術館に職を得たことを契機に、私は札幌に移り住んだ。その時、27歳。独り暮らし歴8年の経験値を背景に泰然と構えていたものの、いざ、ここに越してみるとなかなか勝手が違った。夏は意外にきちんと暑く(猛暑の年)、冬は案外寒くなかった(よそは屋内でも寒い)。ややひるむほどに街は大きく、車は速く、緑は淡い。あちこち見聞し、生活してきた他の地域とはまったく別の様相だった。

一方で夢中に仕事に打ち込んだ。日本近世絵画を対象としてきた自分がほぼ対極にある彫刻や現代美術について学び、地域作家との関係も着々と築いた。最初の10年くらいは今から見ると非常識レベルの残業の日々。美術館に泊まることも何度かあった。深夜にひとり、図録の校正中に人生初の鼻血をつつと垂らしたのが懐かしい。

2019年、札幌での暮らしが20年目を迎えた今、本郷新記念札幌彫刻美術館にいる。47歳にして初めて経験した異動。当初、同じ美術館なのだから、と高をくくっていた。が、いざ、ここで働いてみるとなかなか勝手が違った。規模は小さいが、自立した一つの美術館である。その施設保全、運営に関わるすべて、例えば、屋内外の清掃、駐車場管理、地域、教育機関との関係構築などを少数の職員でこなさなければならない。前任の館を振り返れば、札幌芸術の森という大きな母体に甘えていたことを今更ながら認識する。

元号が改まったのと機を同じくして、ふたつの美術館に対する自身の認識も改められることとなった。これらは「連携」ではなく「連帯」する関係が望ましい。この度の異動は、身をもってそのことを痛感する好い機会ともなった。



## 北海道におけるブールデルとその系譜

井上 由理

(長野県・八ヶ岳美術館特別研究員)

御存知ですか。道立近代美術館ロビーに高さ372cmの見上げるような彫刻が入館者を迎えてくれるのを一。作品はブールデル(1917-1923)作の《力》で、1925年、プエノスアイレスに設置された《アルヴェアール騎馬将軍》記念像の一つ。つまり、騎乗するアルヴェアール将軍を囲む4つの人物像の一体である。残る3体は道立旭川美術館に《雄弁》(1982年設置)、道立函館美術館《自由》(1986年)、道立帯広美術館《勝利》(1991年)と15年をかけて4体が北海道にそろった。函館では玄関横に設置され、遠目にも像が館のシンボルのようである。道立近代美術館の五十嵐聡美学芸員によるとブールデルの作品は北海道全体で10体あるという。

それでは、作者のエミール＝アントワン・ブールデルは、どれくらい知られているのだろう。言うまでもなく、彼は1914年にロダンが没した後、フランス彫刻界を代表する彫刻家だった。弟子を取らなかったロダンと真逆で、ブールデルは自身がつかんだ彫刻の法則を、情熱を傾けて世界から集まる学生達に指導した。多い時は50人を超え、総数は400人と推定されている。教え子の中には世界的な彫刻家になったアルベルト・ジャコメッティ、ジェルメーヌ・リシエのほか、帰国後に母国を代表する彫刻家になった学生も多い。例えば、オスロ市庁舎や国内に作品を残したノルウエーのニコラ・ショルをはじめユーゴ、アルゼンチン、スイス、ギリシャにもいる。

ここで、ブールデルの彫刻や指導法を詳述す

る紙幅はないが、日本からも5名が師事した。一番早くに在籍したのは保田龍門(1891-1965)、次いで、金子九平次(1895-1968)、佐藤朝山(1888-1963)、清水多嘉示(1897-1981)、武井直也(1893-1940)の順で、ほぼ同時期だった。

佐藤の日本橋・三越1階フロアの10mを超す《天女像》のように、帰国後、彼らは日本各地にそれぞれの作品を残した。

こうした中で、筆者が注目するのは武井が帰国後、1936(昭和11)年に組織した日本彫刻家協会である。ブールデルを超える日本の彫刻を彼等は模索した。同会の主要メンバーに北海道にゆかりの深い加藤頭清がいた。武井と加藤は東京美術学校で同級生だった。武井がフランスで学んだ彫刻の数々に加藤は真剣に耳を傾けただろう。ここに、日本近代彫刻史で一つの大事な交差があったことを指摘したい。

何かというと、日本人がブールデルに師事したちょうど20年前に荻原守衛を通してロダン彫刻のブームが起こったのは周知の通りである。加藤は、荻原を、そしてロダンを敬愛する中原悌二郎と出会って彫刻へ転向した。結果的に加藤はロダンからブールデルへの道をたどり、ブールデルの彫刻を理解した。

言うまでもなく、芸術家は己の表現を確立する。しかし、その中に必ず、作家が受けた影響、何らかのインスピレーションが潜んでいる。改めてブールデルの彫刻を眺め、加藤の彫刻を眺めよう。

あなたはどの彫刻がお好きですか。



## 彫刻の安全管理

友の会副会長 高橋 大作

2019年6月29日、公開セミナー「いま、野外彫刻の保全を考える」が札幌文化芸術交流センターSCARTS コートで開催されました。このセミナー開催の直接のきっかけは、昨年11月28日に札幌彫刻美術館で彫刻「鳥の碑」（重量約600kg、高さ187cm）が突然倒れ、点検していた寺嶋弘道館長が負傷した事故。さらに、今年、セミナー開催直後の7月1日には大阪の御堂筋で銅像が台座から落下し、同3日には岩見沢市で駅前の野外彫刻に乗用車が激突して損壊のニュースが相次ぎました。今後このような案件が急速に増加するものと思われま

す。そういう時代状況の中、このたびのセミナーで、故山内壮夫先生制作のコンクリート彫刻、《よいこつよいこ》の修復経過を発表する機会を与えられました。

ところで私ども友の会は、2008年（平成20年）、山内先生の生誕100周年を記念して、山内作品の清掃と設置状況の調査を行いました。そののち札幌市へ市内の野外彫刻全般（約700体。うち415体を市が管理）に関する保全、修復についての陳情を毎年のように行いました。そしてこの作品については特に劣化が甚だしい状況から、早期の修復を強く要望しました。《よいこ》像は1952年に制作され、直ちに円山動物園前に設置されましたが、長年の風雪、風雨にたえ

きれず鳥の尾羽は凍害による爆裂で欠け落ち、頭部も同様でした。

修復の技術的詳細については友の会会報「いずみ」62号（2018年1月）を参照していただきたいのですが、全国的にコンクリート彫刻が設置されたのは戦後の短期間に集中しており、設置環境その他を考えれば、30年ぐらいでも倒壊の可能性があります、いわんや40年、50年と経過すると、その可能性はますます急激に高まり、その数も級数的に増加するものと思われま

す。彫刻像は土木や建築の分野でいう「構造計算」はされておらず、配筋量や位置に関しても考慮されていません。また、コンクリート彫刻については、コンクリートを取り巻く環境が日本全国で最も厳しい北海道では凍害や冬期間、道路に散布する凍結防止剤によって劣化が促進され、ブロンズ彫刻でも像本体と台座との間を締結しているボルトの腐食が進むため、いつ像が台座から転落してもおかしくない可能性があります。そのためにも友の会は以前から野外彫刻の保全、修復のために有識者を集めた専門委員会を設置し、早期の全数点検を要望してきたところ

です。彫刻像の美しさを鑑賞する以前に安全を確認しなければならない時代になってきたという感がする今日この頃です。

## もっと若者世代への発信を

会員 川西 優里奈

はじめまして、札幌彫刻美術館友の会会員の川西優里奈と申します。私は現在、大学4年生の22歳です。今からさかのぼること5年前の17歳の夏、初めて友の会のボランティア活動に参加しました。最初は、美術部の顧問の先生から手伝っておいでと言われて始めた活動でした。それまでは、大通公園や中島公園の銅像が、まさかボランティアの方々がきれいにしてくれていたとは知らず、感動ととても驚いたことを覚えています。バケツで水を汲んだり、時にはワックスがけをして保全したり、高圧洗浄機をみんなで持ち上げたりと汗をかきながら一生懸命皆さんと活動していく中で、きれいになった時の達成感が忘れられず、はや5年活動を続けています。

私が活動を通して一番感動したことは、橋本会長のある言葉でした。「とっても素敵な銅像も、ハトのフンやガムがくっついていっただけで目を背けたくなる対象になってしまう。これは悲しいことだし、だからこそ私たちの活動が大切だなあと感じます」。この言葉を聞いたときに、ああこの思いを年代問わずいろいろな方に伝えたいなと思いました。友の会の活動は地域の方をはじめ、幅広く北海道外にも知られていると思います。ですが、活動を始めた5年前から現在も私が、会員の中で最年少です。活動に参加する度に、昔から活動されている会員の皆様に対して、若者の少なさにいつもやるせない気持ちでいっぱいになります。

何か私にできることはないかと常日頃考え、活動に参加するときは率先して動いたり、荷物を運んだりなどしていましたが、それだけではダメなのではないかと思いました。私は来年大学を卒業し、社会人として働き始めます。今までのように学生気分であることはやめようと決心しました。

そこで皆さんに提案があります。皆さんの活動をより多く、そして世代を問わず発信していく活動をしたいです。現在も友の会のホームページやブログ、会報や、時には新聞などで活動を発信されていることも、とても素敵だなと感じています。ですが、現代はネット社会になり、携帯電話からスマートフォンへ、パソコンからタブレット端末へと進化しています。世代を問わず、特に若者に活動を知ってもらうにはSNS(ソーシャルネットワークサービス)を活用していく新しい試みも必要なのではと思います。Twitter(ツイッター)やInstagram(インスタグラム)といった若者が常日頃欠かさず見ているコンテンツでこの友の会の活動を広く発信し、次の世代へと活動の幅を広げていきたいと考えています。

最後になりますが、いつも活動を共にしてくださっている皆様に本当に感謝しております。素敵な笑顔で話しかけてくれたり、休憩がてらお菓子をいただいて一緒に食べたり、ボランティア活動がこんなにも楽しいと思えるのは皆様のおかげです。

## 自作自選 39 作者の言葉

形に言語的な役割を求めているわけではないですが、言語化出来ない、形だけが語りうる声があると信じています。現代美術では、言葉を使って、いかに作品に聡明な意味付けが出来るかが重要視されているようですが、私は実直に形を探求し、そこから時折聞こえてくる、微かな形からの声を大切に制作していこうと日々奮闘中です。

(星槎道都大専任講師 北広島市在住)

タイトル：《 無題 》

制作年：2019年

素材：藤、竹、布、ひもにカシューで着彩

サイズ：H100×W150×D90cm  
(サイズ可変)

設置場所：作家蔵

## 連載 宮の森の四季 38

### 本郷新記念札幌彫刻美術館

#### 20年目にして初の異動

岩崎直人

1999年、札幌芸術の森美術館に職を得たことを契機に、私は札幌に移り住んだ。その時、27歳。独り暮らし歴8年の経験値を背景に泰然と構えていたものの、いざ、ここに越してみるとなかなか勝手が違った。夏は意外にきちんと暑く(猛暑の年)、冬は案外寒くなかった(よそは屋内でも寒い)。ややひるむほどに街は大きく、車は速く、緑は淡い。あちこち見聞し、生活してきた他の地域とはまったく別の様相だった。

一方で夢中に仕事に打ち込んだ。日本近世絵画を対象としてきた自分がほぼ対極にある彫刻や現代美術について学び、地域作家との関係も着々と築いた。最初の10年くらいは今から見ると非常識レベルの残業の日々。美術館に泊まることも何度かあった。深夜にひとり、図録の校正中に人生初の鼻血をつつと垂らしたのが懐かしい。

2019年、札幌での暮らしが20年目を迎えた今、本郷新記念札幌彫刻美術館にいる。47歳にして初めて経験した異動。当初、同じ美術館なのだから、と高をくくっていた。が、いざ、ここで働いてみるとなかなか勝手が違った。規模は小さいが、自立した一つの美術館である。その施設保全、運営に関わるすべて、例えば、屋内外の清掃、駐車場管理、地域、教育機関との関係構築などを少数の職員でこなさなければならない。前任の館を振り返れば、札幌芸術の森という大きな母体に甘えていたことを今更ながら認識する。

元号が改まったのと機を同じくして、ふたつの美術館に対する自身の認識も改められることとなった。これらは「連携」ではなく「連帯」する関係が望ましい。この度の異動は、身をもってそのことを痛感する好い機会ともなった。

## 国際映像祭で最優秀芸術賞

### 会員の映像作家・馬場ふさこさん

友の会会員で映像作家・馬場ふさこさんがロシアで開かれたドーム映像の国際フェスティバルで最優秀芸術賞を受賞したことが9月3日の北海道新聞朝刊で報道された。

道新によると馬場さんは6月にロシアのモスクワで行われたフルドーム映像国際フェスティバルに「隠れた庭」という音楽を伴う7分間の映像作品を出品した。青系の画面に花卉や水、インドでみられる「階段井戸」などの幻想的なイメージが現れる。

世界 15 カ国・地域から出展された 37 作品の中から見事、受賞作に選ばれた。

馬場さんはフルドーム映像作品を手掛けて十数年、これまでも各国の映像祭で評価され、小樽芸術村の旧三井銀行小樽支店には常設作品がある。

## 鴨々川を清流にする会

### 友の会も清掃作業に汗流す

今年で 31 回目を迎えた札幌・中島公園の「鴨々川を清流にする会」が6月2日に行われ、友の会も清掃作業などに参加、



彫刻の清掃などに汗を流した。昨年は雨天のため中止だったが、今年は参加者の意気込みも高く、200人を超えた。

友の会は 2015 年から参加しており、今年も彫刻清掃に関心を寄せる地域住民のほか藤女子大の教官、学生ら 6 人、さらに公園内にある児童会館の子供たち、指導員も含め 20 人で作業を行った。

《木下成太郎像》の紹介と清掃作業の手順を説明、それぞれが分担して作業を行った。《バーンスタイン像》を手がけた藤女子大学生たちは脚立を使って高いところにも手を伸ばし、子供たちは山内壮夫の猫の作品などを清掃、水かけなどで大はしゃぎだった。

作業を指導した長峯慰子さんは「1 時間足らずの限られた時間内では多くの彫刻の清掃は望めないが、中島公園の彫刻を少しでも知ってもらえればうれしい」と話していた。

## 中島公園かもくま祭も盛況

### 友の会の彫刻パズルに人気

毎年恒例になった中島公園の「かもくま祭」が7月7日、開館 70 周年を迎えた中島児童会館を中心に開かれ、友の会も彫刻クイズなどで子供たちに



喜ばれた。

友の会のブースには大勢ののちびっこが集まり、彫刻パズルを行った。毎年、大好評で、60 人余りの子供たちが参加した。さらに、20 名ほどの親子が山内壮夫の作品がある「香りの広場」まで移動、「彫刻探検隊」と称して彫刻清掃にも参加し、簡単な彫刻解説や周りの花壇の大切さなどの話を真剣なまなざしで聞き入っていた。

中には雑巾を持って母子像を洗っているとき大発見！「ママおちんちんがある！」と目を丸くして報告する子供に皆で大笑するなど和やかな雰囲気だった。

**事務局日誌**▼2019年5月25日＝  
 《新渡戸稲造碑》彫刻清掃▼30  
 日＝雑誌「ケア」編集会議▼6月  
 2日＝鴨々川清掃(中島公園)▼  
 彫刻美術館と懇談▼9日＝北大  
 構内彫刻鑑賞会(18人参加、20  
 体清掃)▼29日＝会報「いずみ」  
 68号発行、開成中等校生インタ  
 ーンシップで見学、芸術文化財  
 団「いま野外彫刻の保全を考える」  
 セミナーで高橋大作副会長講演  
 ▼30日＝ブロンズ彫刻塗装実習  
 (彫刻美術館)▼7月17日＝宮の  
 森緑地公園彫刻清掃▼29日＝  
 《よいこつよいこ》像破損で市文化  
 部に申し入れ▼8月6日＝第2回  
 市文化部懇談会

**編集後記**▼機会があつて南区  
 真駒内公園の本郷新作「雪華の  
 舞」像を見に行つた。道路わき  
 からは繁つた木々の陰になりち  
 よつと探すのに苦労したが、札  
 幌五輪を思い出させる立派な記  
 念碑だつた▼ふと、作者や設置  
 の由来などを書いた銘板を探し  
 たが記念碑の周囲には見つけら  
 れなかつた。探し方が悪かつた  
 のかもしれない。だが、せつか  
 くのモニュメントなのだから、  
 もっと目に入るところに設置し  
 てもらいたいと思つた。(大内)

札幌彫刻美術館友の会  
 会報「いずみ」 No.69  
 2019年10月1日発行  
 発行人 橋本 信夫  
 編集者 大内 和  
 (札幌市清田区清田5-4-6-30  
 011-884-6025)  
 印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」69号 目次

自作自選39 《 ？ 》	表紙
作者の言葉	2
宮の森の四季39「20年目にして初の異動」	岩崎直人 2
風見鶏「北海道におけるプールデル」	井上由里 3
寄稿「彫刻の安全管理」	高橋大作 4
寄稿「もっと若者世代への発信を」	川西優里奈 5
友の会ニュース	6-7
老朽危険彫刻リスト/インターンシップ生が見学/馬場さん国際映 像祭で受賞/鴨々川清掃/かもくま祭	
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

#### ■企画展

家具の彫刻家 フィン・ユール展

後期9月26日(木)～11月7日(木)

デンマークの近代家具を代表するデザイナーの一人、フィン・ユールを  
 紹介する。それまでデンマークで主流だったシンプルなデザインとは一線  
 を画し、彫刻的な美しさを持つユールのデザインによる椅子や日用品、図  
 面などの資料を展示する。

#### ■所蔵品展

本郷新と「無辜の民」

11月15日(金)～2020年2月12日(水)

国や時代を問わず苦難を強いられる人々に心を寄せ、作品を制作した札  
 幌生まれの彫刻家・本郷新。代表作「無辜の民」シリーズや野外彫刻のス  
 ケッチを展覧。

### 記念館

#### ■所蔵品展

常設展「本郷新の歩みと芸術」

#### ■図書・情報コーナー

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>